



今年、ぼくはおじいちゃんの家近くにあるツバメの巣を観察して、日記を書きました。期間は四月二十五日から七月二十二日までの八十九日間でした。ぼくは観察をしてみて、ツバメは順調に卵からヒナに育ち、巣から旅立っていくものだと思っていました。でも観察結果は全然違いました。

卵は合計二回産まりました。一回目は卵が六つ産まれ、無事に六羽ともヒナになりました。でもヒナが産まれて五日目に一羽いなくなりました。ぼくは何回も数えてみましたがやっぱり一羽いなくなっていました。お母さんにその事を言うと、「巣から落ちてしまって、いなくなってしまったかもね。」と言われました。それでも五羽は元気にエサを親ツバメからもらっていたので観察を続けました。ヒナはどんどん大きくなって、親ツバメのすがたになってきました。ぼく

が学校に行っている間は、お母さんや近所のお店のおじさんたちがツバメの様子を見てくれました。でもあと三日目もあれば巣立つと思っていたやさきの観察三十八日目の朝、五羽のヒナはカラスにおそわれてしまいました。巣の周りの地面には大量のヒナの羽が落ちていました。そしてぼくは近くの公園で一羽のツバメのヒナの死体を見付けてしまいました。そのすがたを見てすごく悲しくて涙ができました。家に戻りお母さんにそのことを伝えました。お母さんは、「残念だったね。でも自然の世界ではよくある事だよ。カラスも生きているし、カラスもヒナを育てるためにエサが必要なんだよ。」と自然のきびしさを教えてくれました。それを聞いてもやっぱりぼくはとても悲しかったので観察をやめようと思いました。でもそれから三日後同じ巣にまたツバメがやって来ました。一生けん命巣を作り直してまた卵を産む準備をしていたので、ぼくは観察を続けようと思いました。また卵が産まれ、二十四日目にまたヒナが産まりました。今度は五羽のヒナが産まりました。しかし一回目と同じように産まれてから七日目にまた一羽のヒナが巣から落ちてしまいました。近くのお店の人が巣に戻してあげましたが多分死んでし

講 評

まいりました。でもそれからは順調にヒナは育っていき二回目は四羽のヒナ全部が巣立つ事が出来ました。ぼくはこの期間をツバメと過ごしてみて、自然のきびしさを体で感じることが出来ました。産まれたヒナが全て無事に親になることが出来るわけではなく、ヒナの時から、兄弟でエサをより多くもらうため知えを使って、そして外てきにおそわれないという幸運があつて親鳥になるのだと知りました。そして自然界で生きるとの動物にとっても同じ事だとお母さんから教えてもらいました。この観察から人間に産まれたぼくがお父さんやお母さん、家族のみんなからどれだけ大切にしてもらっているか身にしみて知ることができました。だから、これから一日一日を一生けん命生きて行こうと思います。

89日間にわたるツバメの巣の観察記録。祖父の家の近くのツバメの巣に6羽のヒナが産まれるが、カラスに襲われるなど全て死んでしまう。悲しくなりやめようとするが、数日後に再びツバメがやってきて一生懸命巣作りする姿を見て観察を再開し、今度は5羽が産まれ4羽が巣立つ。自然の厳しさを通して、自分の境遇を再考しているほか、巣の様子や母とのやりとりなど細やかに描写されており、読み手をドキドキ、わくわくさせる作品である。

